

安全会議議事録

開催日時: 令和4年9月19日(月)

8時30～10時30分

所: 室内練習場

議事録作成人: 市川

<はじめに>

監督: それでは、安全会議を始める。お前達選手の為なので、しっかり聞いておくこと。

頭にボールが当たることは大変危険である。

「たれば」という言葉がある。あの時ちゃんと見てれば、、、投げた球が良いボールだったら、、、ちゃんと捕ってれば、、、それでは遅いんだ。

野球は安全ではない。事故は防ごうと思えば防げる。人が亡くなることは後悔だけでは済まない。

チーム解散の非常事態だ。お前達の大事な命をチームは預かっている。

他チームにも数々の事故が起こっている。失明をした選手もいる。

仲間が死んでから、そうなってからでないと、仲間のありがたみは分からない。

他にも、ボールが当たったこと、その後の様子を指導者に報告することは義務。

報告があればもっと早くに病院に連れていけたかもしれない。そうならない様に、

チーム全体での連携は今後も活動していく中で、大いに必要である。



<練習場に移動>

危険な状況について選手が挙手にて発言(実際に表現する)。各自ノートに記録。
藤田主将により進行する。



監督：狭い室内練習場は、グラウンドより危険。

選手1人1人の声出しが重要。全員タイミングを合わせた声出しは集中する為のもの。

入団時に伝えたように声が出せない選手はやめてもらう。

よそ見をしない。返事はすぐにする。

事務局：今待っている間に、危険について考えていた選手はいるのか？この時間で何も考えてない選手ではいけない。

□室内練習場での危険な場合



*トスバッティング編

小野選手：トスする選手がマスク(お面)をかぶらないことがある。

監督：最近他チームの選手がこれで失明した。

→再度かぶることを徹底。

小倉選手：素振り時に隣の選手と距離を取る。

→お互いに距離感を意識する。

浅野(龍)選手：各ネットの閉め忘れに気をつける。

→必ず閉めることを徹底。

古川選手：声を掛けずにトスをやっている選手の後ろを通過する選手がいる。

(バットを振っている状態の時もある)

→トス時には通過しない。必ず声を掛けること。

日浦選手：素振りの時に何も言わずに通ると危険。

→必ず声を掛けること。

有田選手：ボール回収は隣のゲージと同時期に行うことを徹底しないと危険。

→ボール拾い中に隣の打球が飛んでくる可能性もある。同じタイミングでボール拾いを行うこと。

* マシン編

古川選手：変化球マシン時にネットの後ろにいる待ちの選手がヘルメットをかぶらずにいたり、ボールから目を切らしている選手がいるので危険。

監督：ネット越しにボールが当たったりすることもある。

→ボールや人の動きから目を切らさない。

浅野(伸)：直球打ちのマシンについても同じ意見。

有田選手、虻川選手：変化球マシン・直球マシン動作中むやみに触れたりしない。

有田選手：変化球マシン動作中、上のネットにボールがのった時に拾おうとする選手がいるが、マシンが動いているので危険。

虻川選手：止まったのを確認してから、ボール拾いをする。

→マシンが止まっているのを確認後、触ること・ボール拾いを再度徹底。

小野選手：マシン場所のネットの閉め忘れがある。ボールが隙間より飛んできて危険。

→再度閉めることを徹底する。

市川選手：2台のマシンが同時に停止したときにボールを拾わないと危険。

→マシンの停止の確認をもって、ボール拾いを徹底する。

西村選手：変化球マシンのボール詰まり時は機械から離れないと危険。

→指導者に声掛けし、選手で対応しない。

後藤選手：マシンの残り1球時に気を抜く選手がいる。終わるまでしっかり意識を持って危険を回避する。マシンのボールが、発射される穴から飛んでくることもあるので危険。

→最後まで目を切らさず意識する。

浅野(伸)選手： ボールを踏まないように注意する。捻挫等の怪我をすることもある。
→気をつける。

小倉選手： 変化球の片付け時に、ボールを投げて回収する人がいる。頭にあたる場合がある。
→ボールは投げずに転がして片付ける。不注意を無くすこと。

有田選手： ボール回収時の危険。トスゲージの回収も隣のゲージと同時期に行うことを徹底しないと危険。忘れていた選手がいる。機械の方と一緒に意識を持つこと。

監督： 室内練習場は狭いスペースであるし、同時にマシンもある。最初に使い方の説明をしたときのことを思いだし、ルールをしっかりと守り、今一度意識を持って取り組むこと。また常に危険を感じ周りに配慮すること。何かが起こると使用できなくなる。

□グラウンドでの危険な場合

*キャッチボール時

小柳選手： 隣との距離に気をつける。

監督： 1,2年生に意識が低く、雑に投げる選手がいる。ボールが飛んでくる可能性もある。
→しっかり間隔を取ること。

長谷川選手： 相手が準備できていない(構えていない)段階でボールを投げる選手がいる。
→相手の状況を見て投げる。

監督： 投球フォームでボールから目をきる選手がいるが、この場合は相手はその選手が整ってから投げるようにしてあげること。

*ノック時

秋場選手： ノック時に目を切らさない。

監督： ノック時は常にボールが動いている。絶対にボールから目を切らないようにする。
→動きに対し、常に目を切らさないことを徹底。

虻川選手： ボールから逃げない。特にイレギュラー時に逃げる(目を切る)と怪我に繋がる。

監督： 入団時に言っている。ボールから逃げると怪我をする。
→絶対逃げない。目を切らないことの意識。

内藤選手： 自分の出番以外でも目を切らさない。いつ飛んでくるかわからない。
→絶対目を切らないことの意識。

鶴選手： 外野ノック時にエラーした選手のボール回収方法で危険な時がある。一方的にボール拾いの人に返すのではなく配慮する必要がある。

監督：手伝いの父兄さんに失礼だ、丁寧に対応すること。
→球拾いがあたりまえだと思わずに、しっかり丁寧にボールを返す。

成田選手：周りを走っている選手も目を切らさない。
→目を切らないことを徹底。

梶田選手：トンボの置き場所や置き方を整える。つまりいたりボールが跳ね返ったりして危険。
→整頓する。ノックをする前に把握する。

補足：カゴ回収時・ボール拾い時も目を切らさないこと。そのときにヘルメットをしっかりかぶることを再度徹底。

*バッティング時

後藤選手：ファウルボールに注意。よそ見している選手がいる

監督：ランエンドヒットの時はファールが多いから注意する事。走塁練習で待ちの選手は特に注意。
→目を切らないことを徹底。意識すること。

中村選手：ピッチング練習の選手もしっかりボールから目を離さない。
→目を切らさない。ピッチング練習選手の前に人を立たせる。

西村選手：バットのスッポ抜けに気をつける。
→手汗をしっかり拭く。

矢野選手：バットの整備をしっかりやらないと危険。ボールが跳ね返ったりすることもある。
→整理整頓。

日浦選手：自分の番以外で素振りをしている選手が、ヘルメットをかぶっていない場合がある。

監督：3年生に多い、油断してはいけない。
→もう一度徹底してきちんと被ること。

*走塁時

小倉選手：番意外に並んでいる選手もボールから目を切らさない。常に集中していないと危険。
→目を切らさないことを徹底。

小野選手：スライディング時に怪我を防ぐため、石拾いやグラウンドはきちんと整備する。
危険を先に察知する。
→グラウンドの整備をきちんとやること。意識すること。

*自主練時

西村選手：選手が分かれて練習しているので、ボールの行方や距離・スペース等周りに気をつけながら行わないといけない。

→周りに配慮が必要。そこを徹底すること。

***他**

爪をしっかり切ること。

→選手として当たり前だが、しっかりやろう。

<最後に>

監督:チームの動きを常に把握しておかないといけない。練習中に自由の時間などない。

目を切らさない。グラウンドの風景は確認し、覚え意識する。これは危険察知や状況判断の予備動作に繋がる。凡ミスをなくそう。そこを徹底すれば怪我はなくなる。

もう一度ルールを確認し守るようにしてほしい。守らない選手がいるなら、注意し親を呼んでチームをやめてもらうことになる。また守ってない選手がいたら教えてほしい。チームとしてそこは徹底していきたい。

ボールから目を切らない。避けない。避けることが一番危険。

キャッチャー防具を見ればわかる。ボールから逃げなければ防具が防いでくれるようにできている。逃げると防御のない部分にボールが当たるようになっている。

入団時から話しているがまだ避けている選手がいる。避けないこと徹底してほしい。

以上、今日の内容をしっかり覚えてほしい。

次にデートボールの避け方・当たり方を監督より指導して終了。



撮影:小西